

カンボジア王国 「分娩時および新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」 ～ Project for Improving Continuum of Care with focus on Intrapartum and Neonatal Care in Cambodia (IINeoC Project)～



ニューズレター 第4号 2016年11月



11月13日から15日は雨期が終わったことを祝う水祭りで、プノンペンではボートレースや花火といったイベントが開催され多くの人が集まりました。こちらの雨はしとしとと降ることは珍しく、「ゲリラ豪雨」か「夕立」のような降り方をします。下水の流れが悪いため、道はすぐに川のようになりますが、バイクもtuktukも負けずに川の中を進んでいきます。

当プロジェクトでは、対象州での新生児死亡が減少するという目標に向け、下記のベースライン調査*を計画しています。

* ベースライン調査：プロジェクト開始前の指標の状況（基準値）を把握するための調査

コンボンチャム州とスバイリエン州のコミュニティーでの新生児死亡に関するベースライン調査

2014年のカンボジアDemographic and Health Survey(DHS*¹)によれば、母子保健の指標は施設分娩率83.2%、新生児死亡率18（出生千対）まで改善しています。これにより例えばスバイリエン州では年間11000の分娩に対し220の新生児死亡が推計されますが、これまでの調査において、報告死亡数は州病院での7例のみであり、推計との差が200人以上あります。地方での登録システムは完全ではなく、特にコミュニティーでの現状は不明瞭なため、分娩施設から退院後に、新生児が、どこで、なぜ、どのくらいの数死亡しているかを知ることが目的とした調査を来年1月に行う予定です。2015年1月1日から2016年12月31日までにコンボンチャム州とスバイリエン州の12の地区で生まれた全ての児を対象とします。調査結果は次回のJoint Coordination Committee (JCC)会議*²で報告予定です。

*¹ DHS：人口保健調査。人口、健康、栄養の分野を広くモニターするためのデータ収集やインパクト評価指標のために国家が行う世帯調査。

*² JCC：技術協カプロジェクトにおける最上位の意思決定機関。詳細は先月のニューズレター参照。



研修機能と周産期医療体制の強化を目指し、1997年にJICA無償資金協力にて完工した国立母子保健センターですが、この度日本からの無償資金協力により施設拡張工事が行われました。



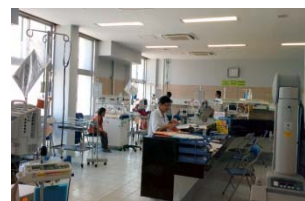
新生児治療室リニューアルオープン

11月初旬に無事引越しが終わりました。引越し当日は新生児室師長やスタッフ、新生児科医師も率先して棚の移動や配置を行っていました。輸液ポンプ、シリンジポンプ、新生児用超音波診断装置、血液ガス分析装置などが新たに導入され、当プロジェクトでも使用方法や保守、点検などへのサポートを行っています。広くきれいになった新生児室、新しい機械にスタッフの笑顔も増えたように感じます。現在は新生児科医9名、Medical Assistant (MA)*¹名、看護師14名が所属しています。もともと11床であった病床数は改修中は6床に縮小されていましたが、改修後は20床になったため、看護師の増員が早急の課題であると考えられます。

*MA：3年間の看護過程で学び、看護師として臨床経験を積んだ後に1年間のコースを修了することで得られる資格だが、現在では養成は停止されている。

国立母子保健センター新棟開所式

カンボジア王国のビン・チン副首相、堀之内秀久駐カンボジア日本大使を主賓とし、11月28日に開所式が行われました。堀之内大使のカンボジア語でのスピーチには会場から盛大な拍手が送られました。病院スタッフ、工事関係者、実習中の学生なども出席し、爽やかな晴天のもと式典は無事に終了しました。新棟は「研修センター」と命名され、会議室や実習室があり、研修生の宿泊も可能です。当プロジェクトでも今後の研修に役立てていく予定です。



左上：病院玄関左に新棟「研修センター」

右上：開所式の様子

左下：リニューアルオープンした新生児治療室

